

ツマジロクサヨトウ情報第2号

令和2年9月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ほ場での幼虫寄生による被害を確認しました 今後の発生状況に注意しましょう

1 本年の愛知県での幼虫寄生確認経過

令和2年8月26日、海部地域の複数の飼料用トウモロコシ栽培ほ場で、ツマジロクサヨトウ (*Spodoptera frugiperda* (J.E. Smith)) 幼虫 (図1) による食害 (図2, 3) を確認しました。また、8月28日に農業総合試験場内の飼料用トウモロコシ栽培ほ場でも幼虫の寄生及び食害を確認しています。

海部地域で幼虫が寄生していた飼料用トウモロコシは草丈30~40cm程度で、半数以上の株で茎頂部の葉の食害及び茎内へ食入したとみられる虫糞を確認しました。葉の食害痕のみ確認できる被害株も2~3割程度ありました。

2 本年の愛知県での発生確認経過

令和2年7月7日、県内5カ所に設置したフェロモントラップのうち、知多地域に設置したフェロモントラップにおいて、ツマジロクサヨトウ雄成虫3頭の誘殺を本年度初めて確認しました。その後、知多地域、東三河地域や農業総合試験場内でも誘殺を確認しました。しかし、誘殺確認後に実施したトラップ設置地点周辺の生息調査では、本種幼虫の農作物への寄生は確認されませんでした。

3 国内における発生状況

今年度は既に33県でトウモロコシ (飼料用・生食用・緑肥用)、緑肥用ソルガム、イネ科牧草、さとうきび等の品目で幼虫の発生が確認されています (8月31日現在)。近隣では、三重県 (5月28日)、岐阜県 (7月16日) でも既に確認されています。

4 本種の形態及び特徴

- (1) 成虫の開翅長は約37mm、雄の前翅は地色が褐色、中央部に斜めの黄色斑紋と翅頂に逆三角形の白色斑紋を持っています。終齢幼虫の体長は約40mmで、頭部に網目模様があり、頭部縫合線に沿って淡色になるため逆Y字状に見える斑紋があります。また、尾部に黒色斑点があります (図1)。
- (2) 国内で幼虫の寄生が確認された植物は、サトウキビ、飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムに限られますが、その他のイネ科、アブラナ科、ウリ科、キク科、ナス科、ナデシコ科、ヒルガオ科、マメ科など広範囲の作物に寄生することが知られています。
- (3) 亜熱帯から熱帯地域に適応した種で、熱帯では年4~6世代発生します。亜熱帯から熱帯地域を除く地域では越冬することができません。

5 防除対策

- (1) 国内では幼虫が飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムで多く見つかることから、これらの作物については特にほ場を見回り、早期発見に努めましょう。
- (2) 本虫は、柔らかい葉を好んで食害する傾向があり、生育初期に幼虫の食害を受ける

と被害が大きくなります。

- (3) 本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに最寄りの農林水産事務所農業改良普及課または農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室まで連絡してください。
- (4) ツマジロクサヨトウに対する農薬登録はありません。本種の発生が確認された場合、愛知県は植物防疫法第 29 条第 1 項の規定により薬剤散布の指導を行います。本種に対して使用できる農薬については、農林水産省HPを参照してください（注）。
注：https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-130.pdf
- (5) 発生が確認されたほ場では、本虫の分散を防ぐため、収穫後は速やかに耕起し、残さをすき込みましょう。

6 連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
電話：0561-62-0085（内線 471）



図1 捕獲したツマジロクサヨトウ幼虫



図2 被害株（葉の食害痕など）



図3 被害株（茎頂部への食入）